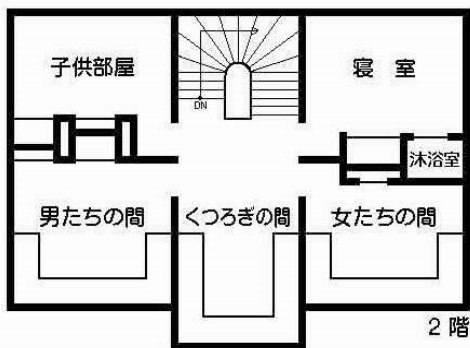


「トルコ イスタンブールの街」^{まち}

こらいより文明の十字路として栄えてきた世界有数の大都市、イスタンブール。1600 年もの間、いくつかの^{ていこく}帝国の^{しゅふ}首都であった旧市街は、ユネスコの^{せかいぶんかいさん}世界文化遺産にも指定されています。ここに^{ふくげん}復元した伝統的民家は今も旧市街にたち活用されている建物をモデルとしています。

展示家屋「イスタンブールの民家」

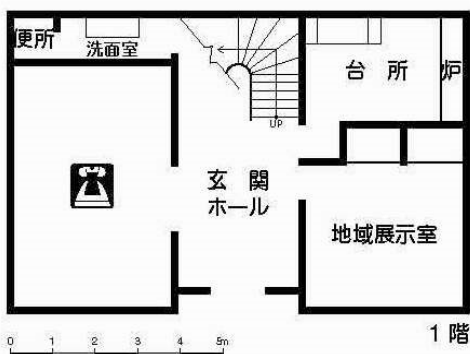


【家族をつなぐソファとセディル】

くると階段を上った 2 階が生活空間です。あがりきったところはソファと呼ばれ、2 階の各部屋を^{れんけつ}連結する^{やくめ}役目をなう重要な空間です。

ソファに連続して、エイバンというくつろぎの間、もてなしの場があります。マットレスを敷き詰めた作りつけのベンチは、セディルといいます。

セディルは、トルコの伝統的民家には^か欠かせないものです。



民家建築情報

木造 3 階建て住居（3 階部分は屋根裏としており、展示はありません）
 建築面積 76.06 m²（約 23 坪） 延べ面積 146.82 m²（約 44.5 坪）


かつての高級住宅街の家

復元ふくげんのモデルとした民家は、19 世紀末にスレイマニエ・モスクのそばに建てられたものです。残念ながら、誰が建てた家かは判りません。しかし、近隣にはオスマン帝国ていこくの地方の県知事けんちじがイスタンブールで宿泊しゅくはくし、客人きやくじんをもてなすための建物があり、その建築年代も同時期なので、19 世紀末当時は高級官僚かんりょうなど富裕層ふゆうそうが暮らす住宅街であったと考えられます。

イスタンブールは、7つの丘の上にたつ街といわれていますが、そのひとつがスレイマニエ・モスクのある丘です。見晴らしも良く、風通しも良い丘の上の瀟洒しょうしゃな家屋。この家の持ち主も、それなりの地位の人、そしてそれなりのお金持ちかねもであったと想像されます。

ナザールボンジュ Nazar Boncuğu

民家の玄関げんかんの上には、目玉めだまをかたどった青いガラス玉がかかっています。トルコ語でナザールボンジュというお守りです。ナザールが「目」、ボンジュが「ガラス玉」を意味し、この家の人々への「ねたみ」、「そねみ」、「うらみ」といった悪意あくいをもった視線しせんを避ける、除けるためのものです。この悪意をもった視線を邪視じゃしとよびますが、意識して投げる邪視だけでなく、無意識に投げかける邪視もあり、容易さに避けることはできません。そうした邪視を避けるために、トルコの人びとは質素しっそな生活を心がけているのですが、どこからこうした悪意を受けるかわからないために、青い目玉のお守りを家の壁に付ける習慣をもつのです。

■  トルコのお土産店みやげてん「ラーレ」には、いろいろな形のナザールボンジュがあります。ぜひ、ご自分のために、あるいはおみやげに、お求めください。